

地球と暮らす

●116

米西海岸の主要都市シアトル。日本の大学生や社会人が、途上国の人が作った工芸品が並ぶ店でインターシップを受けている。公正な取引で途上国の環境に配慮した貿易「フェアトレード」を学ぶ場という。

環境破壊の原因には、途上国の人々の貧困がある。仕事がないために当座の金が必要になり、企業に森林を売却したり、焼き畑に転換してしまう

アイリープ



環境に配慮した貿易フェアトレードについて学ぶ日本の大学生や社会人
米シアトルで、アイリープ提供

環境配慮の貿易学ぶ場

アイリープ(iLEAP)の本部は米シアトル市。アイはinform(伝える)、imagine(想像する)、inspire(鼓舞する)の3語の頭文字で、LEAPには飛躍の意味がある。日本事務局は毎日エデュケーション(0120・655・153)にある。

からだ。

「日本の若者に世界の現状を知ってほしい。そして、問題を解決する人材を育成したい」と、代表を務める日系4世のブリット・ヤマモト米アンティオック大教授(40)は訴える。

ヤマモト代表は米ミシガン大卒業後の93年、母親の祖先がいた熊本県を訪ね、「公立菊池養生園診療所」(菊池市)の存在を知った。ここでは、竹熊宜孝所長(現・名誉園長)が、有機農法で得

られた食によって住民の健康を維持し、地域の交流も図っていた。その姿勢に感銘し、1年間研修を受けた。この体験を生かそうと、96年から故郷カリフォルニア州で、若者に有機農法を指導する農場を設置。また、「参加者が社会起業家精神を学びながら経済や環境など多様な視点を身につけてほしい」と発展させたのが04年に発足した「アイリープ」のプログラムだ。

研修で重視しているのは実践だ。企業の担当者を訪ね、経済成長と環境保全を両立させる難しさを知る。野生生物保護に

かかわるNGO(非政府組織)のインターシップとして企画立案にかかわる。研修は数週間続き、日本語は使わない。

「研修には途上国のリーダーも参加する。食料や環境問題は関係者の利害が絡んで解決が難しい。立場による違いを学んで解決につながる能力を育てたい」とヤマモト代表は話す。【田中泰義】

